



鹿児島黒牛 日本一

第11回全国和牛能力共進会



5年に1度開催される第11回全国和牛能力共進会（全共）が、9月7日～11日にわたり、宮城県仙台市で開催されました。参加39道府県（513頭）の成績に基づく団体順位において、鹿児島県が1位に輝きました。「ひらけ栄光の扉！ 世界へ 未来へ 鹿児島黒牛」を掲げ、関係機関一体となって取り組み今大会に臨んだ鹿児島は、特別区を除く9区分のうち4つの区分で1席を獲得、出品した全頭（29頭）が上位6席に入賞しました。

団体賞は2007年の鳥取全共から設けられ、宮崎県が連覇しており、10年越しの首席獲得となりました。

また、肉牛の部においても、枝肉取引価格は今大会最高で前回大会を上回る1kg当り50,001円の値を付け、せり会場を沸かせました。

会場では、「食べよう！」「つなげよう！」「魅せよう！」「伝えよう！」をコンセプトに6つのブースで来場者を迎え入れたところ約42万人と賑わいました。現在、日本農業を取り巻く環境がさまざまな要因で不安定となっている中で、地域の和牛ブランドが地方創生の起爆剤として、また海外に向けては和牛肉が海外輸出への重要な品目として期待されています。

次回、2022年の第12回全共は鹿児島県霧島市で開催されます。

優良和牛改良組合表彰

共進会の中で、優良和牛改良組合表彰が行われ、「分娩間隔の部」において屋久島和牛改良組合が表彰されました。

『高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産』をテーマに、今回の表彰は生産効率の向上を目指した繁殖能力の改良への取り組みにおいて、全国の繁殖雌牛集団における分娩間隔の平均値を400日以内にするを目標にし、全国上位15組合が表彰されました。

屋久島改良組合においては、平成27年から3年連続全国上位15組合の入賞になります。全国平均分娩間隔が411.04日である中、屋久島町和牛改良組合は、383.59日という成績で見事入賞し、代表して、会長の満園梅夫さんが表彰を受けました。



▲表彰を受けた会長の満園梅夫さん

